

Weekly M&A Review

2009/11/20 #32

株式会社ESリサーチ
(エスネットワークスグループ)



目次

M&A、ファイナンスに関する最新情報をお送りします。

- 【特集】「返済猶予法案」について 3

今週のディールレビュー

- ローソンおよび九九プラスの株式交換 5
- 東京グロースリート投資法人とエルシーピー投資法人の合併 6
- 関西アーバン銀行とびわこ銀行の合併 7

ディスクレイマー 8

【特集】 「返済猶予法案」について

- 返済猶予法案（略名。正式には「中小企業者等に対する金融の円滑化を図るための臨時措置に関する法律案」）が、衆議院財務金融委員会で可決（11月19日）。
本号では、返済猶予法案の概要について確認する。

- 法律案の概要

- 1. 金融機関の努力義務

金融機関は、

- ①中小企業者（注）

- ②住宅ローンの借り手

- から申込があった場合には、できる限り、貸付条件の変更等の適切な措置を取るよう努める。

（注）中小企業者の定義（あらかし）

- ①資本金・出資総額が3億円以下（小売・サービス業だと50百万円、卸売業だと1億円）

および

- ②常時使用従業員数が300人以下（小売・サービス業だと50人、卸売業だと100人）

- の金融業等以外の一般事業を営む会社及び個人

ここがポイント

- 「貸付条件の変更等」には、①「リスケジュール（支払期限の変更）」だけではなく、②「リファイナンス（旧債の借換え）」③「デット・エクイティ・スワップ（債務の株式化）」等が含まれるものとされる。
- 法人の場合、資本金・従業員数の要件があり。本法に基づく申請の前には該当要件を満たしているかの確認が必要。

「返済猶予法案」について その2

■ 法律案の概要

2. 金融機関の取り組み

金融機関は、

- ①金融機関の責務を遂行するための体制整備
- ②実施状況と体制整備状況等の開示が求められる。

3. 行政上の対応

(1) 実施状況の開示・検査

- ①金融機関は、定期的に当局へ実施状況を報告。
- ②当局は半年ごとに、金融機関の取組み状況を公表（かつ重点検査）。

(2) 当局が本法推進のために講じる措置

- ①条件変更を行っても不良債権に該当しない要件の整備（金融検査マニュアル等）
- ②信用保証協会が行う信用補完事業の充実

4. 時限立法・・・2011年3月31日で本法は失効（延長可能性あり）。

ここがポイント

- 本法に基づき条件変更等を行っても、債務者区分は「不良債権（要管理以下）に該当しない」とされる（要件は従来に比べて拡充）。
- また、信用保証協会の機能充実も標榜。債権者としては条件変更後の損失（貸倒）について、政府保証を受けられることができる可能性高。

詳細は、金融庁のウェブサイトをご参照ください <http://www.fsa.go.jp/common/diet/173/>

ローソンおよび九九プラスの株式交換

コンビニエンスストア大手のローソン（2651 東1）は、99円ショップを展開する九九プラス（3338 JQ）との株式交換を発表（11月19日）。現在ローソンは九九プラスの親会社（77.71%保有）であるが、本株式交換により九九プラスを100%子会社化する。

✚ 株式交換概要

（株式交換）完全親会社	株式会社ローソン
（株式交換）完全子会社	株式会社九九プラス
株式交換効力発生日	2010年3月1日（予定）
株式交換比率 （発表日前日終値ベースでの割当 価格／買収プレミアム）	1：32.5 九九プラス株1株に対して、ローソン株32.5株を割当交付 （133,900円／+61.9%）
その他	・本株式交換は、ローソンの株主総会の承認を必要としない簡易株式交換にて実行予定。

出所：11月19日付 ローソン「株式会社ローソンによる株式会社九九プラスの株式交換による完全子会社化に関するお知らせ」

ショート・コメント

✓ローソンと九九プラスは統一PB（プライベートブランド）の共同開発、生鮮商品の販売ノウハウの水平展開、物流センター集約などの施策を実行してきたが、完全子会社化することにより、さらに迅速な意思決定プロセスを実現可能と判断。

✓ローソンの株価は、11月20日終値で4,120円（発表前日比±0円）。

✓九九プラスの株価は、11月20日終値で96,000円（発表前日比+13,300円）。理論価格の約13万円に鞘寄せする形で、11月20日ではストップ高に。

東京グロースリート投資法人とエルシーピー投資法人の合併

東京グロースリート投資法人（アパマンショップグループ系／8963 東）とエルシーピー投資法人（米国LCPグループ系／8980 東）は、合併について発表（11月17日）。

📌 合併概要

合併法人	東京グロースリート投資法人
被合併法人	エルシーピー投資法人
合併効力発生日	2010年2月1日
合併比率 （発表日前日終値ベースでの割当価格／買収プレミアム）	1：0.8／エルシーピー投資法人1投資口に対し、東京グロースリート投資法人0.8口を割当交付（80,000円／+14.3%）
その他	・東京グロースリート投資法人は、2010年1月末に投資口分割を予定。 投資口分割後の合併比率は、1：4となる見込み。

出所：11月17日付 東京グロースリート投資法人「東京グロースリート投資法人とエルシーピー投資法人の合併契約締結に関するお知らせ」

ショート・コメント

- ✓2法人ともにLTV（Loan to Value・総資産有利子負債比率）が比較的高いREIT。
ファイナンスコストの高まりや、リファイナンスリスクなどの財務上の問題を解消するため、今回の合併に至る。
- ✓合併後の資産運用会社（AM）は、エルシーピー・リート・アドバイザーズ株式会社が継続する予定。
- ✓東京グロースリート投資法人の投資口価格は、11月20日終値で91,800円（発表前日比▲8,200円）。
- ✓エルシーピー投資法人の投資口価格は、11月20日終値で70,900円（発表前日比+900円）

関西アーバン銀行とびわこ銀行の合併

第二地銀で大阪府地盤の関西アーバン銀行（三井住友銀行子会社／8545 東・大1）と、同じく第二地銀の滋賀県地盤のびわこ銀行（8552 大1）は、両行の合併を発表（11月18日）。

✚ 合併概要

合併存続会社	関西アーバン銀行
合併消滅会社	びわこ銀行
合併効力発生日	2010年3月1日（予定）
合併比率 （発表日前日終値ベースでの割当価格／買収プレミアム）	1：0.75／びわこ銀行1株に対し、関西アーバン銀行株0.75株を割当交付（92円／+4.5%）

出所：11月18日付 関西アーバン銀行・びわこ銀行「関西アーバン銀行とびわこ銀行の合併契約書締結について」

ショート・コメント

- ✓ 関西アーバン銀行は三井住友銀行の子会社であり、びわこ銀行は三井住友銀行の親密先であるなど、両行の関係は密接。
- ✓ 今年の3月に両行は合併に関し基本合意後、合併に関する協議を進めていた。
- ✓ 合併後の銀行の商号は、「株式会社関西アーバン銀行」。合併後の預金量は約3兆9千億円となり、近畿地方に拠点を置く地方銀行では、京都銀行（預金量：約6兆1千億円）、南都銀行（預金量：約4兆円）に次ぐ3位となる見込み。
注）預金量は各行の2009年9月末時点
- ✓ 関西アーバン銀行の株価は、11月20日終値で117円（発表前日比▲6円）。
- ✓ びわこ銀行の株価は、11月20日終値で87円（発表前日比▲1円）

ディスクレイマーおよびお問い合わせ先

- このレポートは主として情報提供を目的としたものであり、特定の会計・税務処理を勧奨するものではありません。
- 会計上及び税務上の判断については、事前に公認会計士及び税理士、弁護士等の専門家と十分ご相談ください。
- 本レポートの利用すること、またはその情報に依存する上で、直接、間接、状況による場合、特殊または結果的に発生する損失、ダメージ、コスト、クレーム、要請などに対し、株式会社ESリサーチは一切の責任を負いません。
- 当レポート上で紹介されている第三者のウェブサイトに関しては、株式会社ESリサーチはその情報の内容についてコントロールする立場にありません。また、一切の責任を負いません。第三者のウェブサイトの利用を推奨するものではありません。
- 記載された意見や予測等は作成時点のものであり、株式会社ESリサーチはその正確性及び完全性を一切保証いたしません。
- 本レポート記載の事項は今後予告なく変更されることがあります。
- 当該レポートの内容に関する一切の権利は株式会社ESリサーチに帰属し、事前の了承の無い複製又は転送は禁じられております。

【本レポートに関するお問い合わせ先】

株式会社ESリサーチ 公認会計士 高桑 昌也
Tel:03-6826-6222/ m-takakuwa@esnet.co.jp
<http://www.esnet.co.jp/es/>